



Synesis version 3.1

リリースノート

2017/07/20, build 50

1. 概要

本文書は、高速トラフィックキャプチャ装置 Synesis v3.1 のリリースノートです。

2. Synesis version 3.1 の新機能

- **L4 統計情報確認機能**
 - ダッシュボードから、L4 統計情報 (TCP, UDP, ICMP, Others の総バイト数、総パケット数)を確認できるようになりました。(Ref #2505)

3. 新モデル

下記のモデルを新たに追加しました。

- SYC-10G-R

4. 修正された問題

下記の問題は、本バージョンで修正されました。

- 数ヶ月にわたる長期のレコードをエージェント画面で選択すると、白い画面が表示され、レコード情報を閲覧することができません。(Ref #2772)
- SNMP トラップによるロックトリガが有効、かつ DELL OMSA の送信する SNMP トラップをローカルホストで受信する設定の場合、意図しないロックが生成されることがあります。本問題は Synesis Distributed のみで発生します。(Ref T-#57872)
- 特定条件下で、統計の CSV エクスポートが正しく行われな場合があります。(Ref T-#55340)
- Synesis にインストールされている WireShark で SSL デコードができません。(Ref T-#53228)

5. 既知の問題

- APM/NPM 画面において、新たに登録したサイト、サーバーグループはウェブページをリフレッシュするまで反映されません。(Ref #130)
- マイクロバースト解析または APM/NPM 解析を行っていないにもかかわらず、レコードリストのページからマイクロバースト、APM/NPM 画面へ移動するボタンを押すことができます。(Ref #367)
- キャプチャ中のレコードの名称を変更しても、キャプチャ終了時に変更前の名称に戻ります。(Ref #1114)
- バックアップされたレコードに対し、マイクロバーストの閾値の変更機能を行うと、結果が表示されません。リセットを行えば、元々の解析結果が再度表示されます。(Ref #1507)
- SNMP トラップトリガによるロック機能では、入力したコミュニティ以外のトラップによってもロックが追加されます。(Ref #1721)
- ディスクの空き容量が十分にある場合でも、ディスク容量不足の警告が表示される場合があります。(Ref #1725)
- メモリ使用量が多い状態でバックアップを実行すると、タイムアウトによりバックアップの作成に失敗することがあります。(Ref #1752)
- フィルタ画面で、新規フィルタを作成する画面を開いた際、前回入力した値がそのまま表示されます。(Ref #1754)
- デコード画面でフローフィルタを使用し、IPv6 のアドレスを “::” で省略した場合、フィルタが正しく適用されない場合があります。(Ref #2178)
- デコード画面の保存フィルタを使ってトレース保存した場合でもトレースファイルタブの保存フィルタの一覧に表示されません。(Ref #2620)
- デコードタブを開いたまま、デコード対象のトレースを削除した場合、タブが残り続けます。(Ref #2637)
- 不正形式のフレームが大量に含まれているレコードをデコードさせると、GUI が停止することがあります。(Ref #2645)
- Email の通知機能と DLC アラート機能が同時に有効の場合、DLC グラフの描画が不安定になります。(Ref #2653)
- キャプチャ中のレコードの統計情報は、エージェント・ワークスペースのレコードタブからはエクスポートできません。キャプチャレコード・ワークスペースからエクスポートを実行してください。(Ref #2665)
- ログイン時に、OS の空きディスク容量が 10GB を下回っている場合にも、警告のメッセージが出ない場合があります。(Ref T-#56906)

- WireShark の SSL デコード機能を使用する際に、キーファイルの削除・追加の操作をおこなうと WireShark が強制終了することがあります。(Ref #3450)

6. 制限事項

- レポートテンプレートを日本語の文字を含めて作成し、英語設定のブラウザでレポートを作成すると、日本語が文字化けします。(Ref #1138)
- ダッシュボード上で DLC グラフを追加する場合、追加時に対象のチャンネルを指定できません。デフォルトはチャンネル A になっており、編集画面にて変更することができます。(Ref #1230)
- 統計情報をエクスポートしたレコードに対してバックアップを行った場合、作成済みの統計情報がバックアップされません。再度統計情報をエクスポートし直すことはできます。(Ref #1512)
- アラート画面から各アラートのトレースファイルを作成しようとした場合、ソフトウェアフィルタが自動では適用されません。デフォルト設定では該当の期間の全パケットが保存されます。(Ref #1466/#1649)
- マイクロバースト解析を行った 5 分未満のレコードをバックアップした場合、リストアしてもマイクロバーストの解析結果が表示されません。5 分以上のレコードであれば正常に表示されます。(Ref #1506)
- 各チャンネルのリンク状況を確認できるモデルで、キャプチャ開始直後の統計情報のステータスが"unknown"と表示されることがあります。(Ref #2590)
- バックアップされたレコードに対し、選択した時間範囲の統計をエクスポートしようとする、それが実行できない旨のエラーが表示されます。全範囲のエクスポートは実行可能です。(Ref #2643)
- 検出したマイクロバーストのアラームは最大 500 個までしかテーブルに表示できません。
- リモートデスクトップから LibreOffice スイートを使用する場合、メニューのショートカット表示が "???" のように文字化けします。
- キャプチャ期間が 5 分未満のレコードでは、APM 解析の結果が検出できないことがあります。APM 解析を行う場合には 5 分以上キャプチャしたレコードに対して行ってください。
- キャプチャ開始後 2 秒間はパケット数などの統計情報がカウントされません。
- SYS-20G-HPP、SYS-40G-HPP において、起動後 90 秒程度はキャプチャ開始ボタンを押せず、キャプチャを開始することができません。これはディスクのウォームアップを行っているためです。キャプチャ開始ボタンが押せるようになるまでお待ちください。
- マイクロバースト解析はチャンネル A～D に対してのみ実行できます。SYS-8G2-HPR モデルでは、チャンネル E～H のデータはマイクロバースト解析できません。

- トレースファイルのサイズが 256 MB より大きい場合、デコード機能へのリンクが表示されません。(Ref #2756)
- デコード画面では、最大 500,000 個のケットまでしか表示することができません。(Ref #2756)
- 自動保存機能の保存先としてネットワークマウントを行っているディレクトリを指定する場合には、マウント時に適切にタイムアウトを設定する必要があります。
- デコード機能でトレース保存をした場合、期間・ケット総数によっては全ケットを保存できない場合があります。
- 自動保存機能は、キャプチャ停止の直前 10 秒間のケットは保存されません。
- 直近のデータの解析結果は、キャプチャの停止を行う、または次のケットがキャプチャされるまで、ダッシュボード、APM/NPM 画面で閲覧できません。

以上